



(△は減額)

平成19年度 補正予算 全議案

予算名	①補正前の予算額	②補正額	①+②補正後予算額	
一般会計	240億9,464万円	△5億2,098万円	235億7,366万円	
国民健康保険事業特別会計	37億8,323万円	△1億2,863万円	36億5,460万円	
老人保健事業特別会計	43億526万円	△8,500万円	42億2,026万円	
介護保険事業特別会計	30億3,533万円	△1億8,034万円	28億5,499万円	
市営バス運行事業特別会計	5,181万円	△95万円	5,086万円	
簡易水道事業特別会計	11億3,414万円	△1,979万円	11億1,435万円	
下水道事業特別会計	34億4,411万円	△8,115万円	33億6,296万円	
土地取得事業特別会計	6億4,130万円	1億4,119万円	7億8,249万円	
上水道事業会計	(収益的支出)	4億450万円	△152万円	4億298万円
	(資本的支出)	4億3,892万円	△7,274万円	3億6,618万円

平成19年度 補正予算 討論 (要旨)

反対討論

活線クラブ

松尾 武治 議員

市民の貯金とも言える基金が減少した。また、18年度との比較で19年度は国民健康保険特別調整交付金の受入がないが、市長の政治力で確保できる財源と言われる約5千万円の調整交付金は、南丹市の大きな財源となる。

特別職の給与減額を提案されているが、19年度に交付されなかった国民健康保険調整交付金額と比べると1割程度で、減額するより多くの仕事をする事が活力ある南丹市の実現となる。

不適切な基金の拠出を含む一般会計の補正予算は、減額補正が多く、市民の皆さんの生活には影響が小さいと判断をしたうえ

活線クラブ

八木 眞貴 議員

三月定例議会の後半は20年度予算案を審議することになっている。大変な財源不足の中で苦労を求めている議員として、反対の意思を表明する。

三月定例議会の後半は20年度予算案を審議することになっている。大変な財源不足の中で苦労を求めている議員として、反対の意思を表明する。

日本共産党・住民協働市会議員団

仲網枝 貴 議員

に積み増しすることの方が、その他の事業の進捗に何倍も効果があるものと考えられる。また、二年間も守ってこられた女性の方々に失礼に当たるのではないか。故に三月補正予算には反対である。また、この5千万円の補正予算を基金として、強いられることは、後ほどの子育て支援に関わる条例についても反対せざるを得ない事になる。

今回提案された補正予算に、「園部女性の館管理運営基金積立金」として5千万円が、計上されている。このお金は、平成19年末に(財)園部国際学園都市センターから南丹市に返還されたものである。財政が厳しい市にとっては貴重な財源であり、その使い方が問われている。今の時期に基金に積み立てることが本当

委員会での

主な質疑

総務常任委員会

問 園部女性の館管理運営基金条例は男女共同参画社会の位置付けがなされていないのではないか。
答 男女共同参画社会実現のための施設の管理運営に広く利用する。

問 5千万円の園部女性の館管理運営基金について、厳しい財政状況の中、一般財源化すべきではないか。
答 5千万円は、今の状況の中議論の余地はある。金額の根拠は難しいが、当面旧園部町の意向を尊重し積み立てる。いろいろな議論があるので検討していきたい。男女共同参画社会の構築の位置付けや、名称、施設管理、事業展開など今後検討する。

産業建設常任委員会

問 市営住宅の使用料の滞納分について、支払い能力がある人でも未納の人がいるのではないかと。
答 18年度未納額の80%の回収を目指しているが、2月20日時点での回収は280万円で、620万円の減収となった。今後も努力して徴収に努める。

問 合併浄化槽の設置状況はどのようになっているか。
答 美山町において23年度までの目標に対し、19年度で75%の達成率である。しかし、19年度の目標40基に対し、19基の設置である。今後も引き続き設置促進を図っていく。

問 降雪による市内の除雪対応はどのようになっているか。
答 除雪車による対応は美山町だけであり、他の3町は融雪剤の配布のみである。今後は、一定の基準を設けて検討していく。

厚生常任委員会

問 どのような方針で、今後の人権教育、啓発推進を進めていくのか。
答 人権教育啓発推進計画を策定するため、庁内の推進本部を立ち上げ現状の課題を分析し施策を定めていく。

問 福祉医療費の支給事業で百万円の増額となっているが、この事業についてどういう見解を持っているのか。
答 障害者や母子家庭の方々を対象とした事業である。今回、見直しの対象とし、所得制限をかけた。

問 18年度、国保の調整交付金は、府の順位から外れていたが、昨年は努力された約5千万円交付された。本年度は、どうであったのか。
答 府より11団体に交付されるが、南丹市は14番目であった。今年は、そういった動きはとっていない。理事者もそういった動きはされていないと思う。

賛成討論

丹政クラブ 外田 誠貴 議員

化すべきである。年間2、3百万円の管理運営経費から見ても5千万円もの積み立ては市民の納得がえられるものでない。

「男女共同参画推進事業」と「南丹市の森林を考える委員会報酬」の減額補正については、当初予算で計上されているにもかかわらず、この間必要な会議の開催もされず、年度途中に全部カットの補正予算は問題である。

また男女共同参画推進計画策定費が繰越明許費とされている。繰越をするやむをえない理由があるとはいえない。

総務常任委員会において、副市長の出席を得て、慎重に質疑並びに審査を行ってきたところである。理事者側より、「男女共同参画社会実現のための施策を強力に進めていきたい」「女



議会風景

性の社会進出を支援する中核施設として使用したい」「管理運営委員会に行政も加わり、南丹市全域に広げたい」「女性の館の名称変更も検討したい」などの答弁をえた。

課題は残るものの、現状では、目的基金として積み立てるのが妥当である。

今後この施設が有効に活用され、男女共同参画社会実現のため、具体的な施策を講じられることを強く希望し、賛成討論とする。